

浮世絵版画買い歩き

渋谷 栄一



再度渡欧する機会を得た時、いろいろな研究課題の他に、現在ヨーロッパに流出している浮世絵を見つけ出しできれば少し蒐集したいと思っていた。そう思ったった動機は、以前パリの国立図書館で多くの浮世絵版画に接し、これ程多くの素晴らしい作品がじかに手にとって見れること、また、これ等のすぐれた作品がいかに多く海外へ流れているかに驚きを感じたからだった。その時はヨーロッパのエッチングを集めることに熱中していたので、次の機会には是非浮世絵をと思って帰国したのであった。

パリに着いて数日後、クリニャンクルの蚤の市で、3枚続きの国春の浮世絵をみつけた。なかなか大胆な構図で、これは面白い！と思ったが、ちょうどお金も手持ちが少なかったし、まあ2、3日考えてからと一旦帰宅したが、やはり何となく心ひかれて一週間後にまた行ってみた。残念ながら、それは既に無くなっていた。無いとなると無性に欲しくなるのが人間の心理で、残念でしようない。

ままよ、他のを探そうと一軒一軒のぞいているうちにまた3枚続きの浮世絵を見つけた。色調は渋く構図も面白い。当時の風俗を見事に描き出している。作者名は口直、知らない作家だが、とても気に入ったので是非欲しいと思ったが、店番がいない。隣のミュージーが出て来て、長い食事をしているんだと両手をあげて大げさな

身振り。しかし代りに売ってやるというので、デスクアウトの交渉に入る。これ以上は負けられないという段階で手を打つ。自分の気に入ったものが身近にあるのはとても心が充たされた気分が良いものだ。

また、とある古本屋でヨーロッパの安物版画を束にして売っている所があり、中には結構面白いものもあって2、3度足を運んでいるうちに写楽の版画を見つけ、驚いた。度々版画専門のギャラリーを見て回ったが、写楽には一度も出会わなかっただけに嬉しかった。紙もかなり破損しているし刷りも決して良くないだけに、却って本物かも知れぬと胸おどらせて裏を見ると15フラン（日本円で約千円也）、たとえ複製にしてもこれだけ雰囲気が出ていれば安いものだと思います、買い求めた。いずれ機会があったらその筋の鑑定家に見てもらいたいが、本物と思って眺めているうちがハナかも知れない。

こんな調子で、古本屋、骨董屋、画廊等で国芳、国貞、国貞を、スイスのベルンでは広重など、結構値打ちがあると思われる作品を千円位いで買い求めた。本物が複製かわからないが、本人はすべて本物だろうと思っているのだから幸せである。親爺がガラクタを買集めておけば、そのうちに息子が成長して、いつの日か内容の充実した渋谷美術館でも建ててくれるのではないかと、楽しい空想もできようというものである。

ヨーロッパ 旅行記



谷内 丞

昨年12月20日の夜、KLM機に搭乗しアンカレッジ、アムステルダム経由で初夏を思わせるローマに着いたのが同じ20日だった。

私は絵を描きたい、美術品もみたいという気持を抑え一行90名のデザイナー、アーティストの団体の一員としてさして目的もないままローマを発ち、アルプスを越えヨーロッパを回り、ロンドンから帰国と一種の探索旅行でもあった。そんなわけで私はせいぜいヨーロッパの空気を吸い、水も酒もその土地のものを飲み、タバコも食事も文句をいわずに食べ、できればヨーロッパの人間と話もしてみたい程度のことを考え実行しながら歩いてきたわけです。そのような旅行だったので、大家の帰朝報告とは違って、私の小旅行の中から一、二興味のあったことを書いてみたいと思います。

言葉のこと

私は英語も独語も全く駄目だと思っていました。だから、そのことで旅行前から大きな不安をもっていた。ところがその不安が全く当らなかったことを知らされ、旅が一層楽しくなった。飛行機の中でスチュワーデスが、〇〇DRINK? というから WINERED? と答える。それからRED? WHITE? と聞くから WHITE と答える。その調子でどこへ行っても全部 OK。レストランへ行ってもカフェへ行っても、スーパーマーケットにはこの調子で毎日のように行き、トマトとオレンジを買ってきました。ロンドンで絵を描いていたら、娘さんに道尋ねられた。相手が大変な美女であったこともあって言葉が口から出てこない。私が日本人だということを知って向こうへ行ってしまうましたが、このことだけが残念です。

食事のこと

ヨーロッパの人間は昼間から酒を飲む、おしゃべりもする。食事もうっくりとする。1時間ぐらいいは十分に

かる。まるで食事をしているのではなく、人と話をするのが楽しみのようだ。私達一行はパリでレストラン・トウキョウという所へ行って、ご飯にみそ汁、焼鮭という日本食を空一杯食べたことがあった。その時は20分で食事完了だった。ところが私達2、3人でループルの近くのレストランで食事をした時には、やはり時間が必要だった。そのようないくつかの食事の体験をした私は、ヨーロッパの人間は飲んで話をして食事をして、時間が余ったら働くのかなあと疑問を持つようになりました。あれでは、日本のように経済大国の仲間入りはできないでしょう。

交通道徳のこと

パリで街を歩いているとき、赤信号だから緑になるまで待っていた。ところがパリ人は皆走っている車の間を体をかわして渡っていくのである。ひどい不道徳な人間がいる街だと思いました。後で聞いたことによると、自分で責任を持つのであればそうやってもよいということでした。そんなことで、パリの人間は統一ある集団生活には全く向いていないそうで、戦争にもかかえない理由はそこにもあるそうだ。

パリ、ロンドンの絵かき

パリのモンマルトルにも、ロンドンのハイドパークの通りにも、画家の集まりの場所があった。私は興味があったので一点一点みて歩いた。ひどい不出来の絵ばかりだった。あれでは、日本のどの公募展に出しても全部落選だろうと思った。彼らはあの絵で生活しているようです。札幌でも最近、外国作家の市場荒しまがいの現象が起っているようですが、日本の画家は自分の絵をもってパリの市場へ進出してもいいと思った。それにしても、彼等の生活する上での度胸は、大したものだと思いました。